

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの継続について

2008年認定の当ジオパークは、令和2年（2020年）に行われた日本ジオパーク委員会（JGC）による第3回再認定審査において「条件付き再認定」となりましたが、令和4年2月14日に開催した南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会（会長：伊那市長 白鳥孝）の臨時総会において、今後もジオパーク認定の継続を目指していくことを決定しました。

□決定にいたる経過

- JGCの審査結果報告書により、正式に条件付き再認定が通知される。（令和3年3月）
- 令和3年度協議会総会（令和3年5月）において、今までの活動を無にすることなく、事務局体制の強化等の指摘に対し、幹事会で改善の可能性を整理し、ジオパーク活動の継続の可否について年度内に結論を出すこととした。総会以降、幹事会において指摘に対する改善方法を「アクションプラン」として整理する作業を進めてきた。
- 日本ジオパークネットワーク（JGN）及びJGCに指摘事項を確認し、方向性について相談を行った。（令和3年6月・11月）
- 協議会臨時総会を開催し、認定の継続を目指していくことを決定した。（令和4年2月14日）

□構成市町村である富士見町の退会

- 令和3年10月21日に富士見町より協議会に退会の申し出がされた。
 - 臨時総会で構成市町村のひとつである富士見町が協議会から退会することを承認。（理由：ジオパーク活動をユネスコエコパークの活動に一本化することにより、効率的かつ効果的な観光振興を進めたい。）
 - 今後、飯田市、伊那市及び大鹿村の2市1村によりジオパークを継続していくことを確認した。
- ※ジオパークのエリア面積は1084.1 km²から1041.9 km²に減少するが、継続することに支障とはならない。（JGN確認済）

□ジオパーク継続に係る今後の予定

- 構成市町村の3月議会定例会へ取組の継続を報告
- 協議会通常総会で令和4年度事業計画等を審議（令和4年5月）
- 再認定審査（令和4年10月以降）



南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会
事務局：伊那市役所商工観光部観光課